

2023年3月24日
三菱電機株式会社

NEWS RELEASE

三菱 UFJ 銀行と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結
SDGs 達成に向けた取り組みをさらに加速

三菱電機株式会社は、株式会社三菱 UFJ 銀行（本店：東京都千代田区、以下、三菱 UFJ 銀行）との間で、同社が提供する「ポジティブ・インパクト・ファイナンス^{※1}」の融資契約を当社として初めて締結し、本日付で実行しました。

「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」とは、国連環境計画・金融イニシアティブ（以下、UNEP FI）^{※2}が提唱したポジティブ・インパクト金融原則^{※3}に基づき、企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、SDGs の達成に貢献する企業活動を継続的に支援することを目的とした融資です。

三菱電機グループは、企業理念にある「活力とゆとりある社会」を実現するため、2021年に「事業を通じた社会課題解決」「持続的成長を支える経営基盤」の2つの面から5つのマテリアリティ（重要課題）^{※4}を特定しました。また、2022年には経営方針を新たに見直し、サステナビリティを経営の根幹に据え、事業を通じてSDGs達成への貢献をはじめとした社会課題の解決を推進しています。

本契約の締結にあたっては、当社グループの取り組みから、SDGsの達成に特にインパクトを与える活動について、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社より定性的、定量的評価を受けました。また、評価にかかる手続きのポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性については、株式会社日本格付研究所^{※5}より第三者意見を取得しています。

今回の取り組みを通じて、今後も当社グループは、事業を通じた社会課題の解決を加速し、SDGs達成とサステナビリティの実現に貢献してまいります。

本契約の概要

アレンジャー	三菱 UFJ 銀行
実行日	2023年3月24日
組成金額	600億円
資金使途	事業資金
参加金融機関 (五十音順)	京都銀行、群馬銀行、静岡銀行、常陽銀行、南都銀行、農林中央金庫、 八十二銀行、百五銀行、百十四銀行、北洋銀行、みずほ銀行、 三井住友信託銀行、三菱 UFJ 銀行、横浜銀行

※1 資金使途を限定しない事業会社向け投融資タイプ

※2 1972年に「人間環境宣言」および「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関である国連環境計画（UNEP）と、200以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップです。1992年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展とESG（環境・社会・ガバナンス）への配慮を統合した金融システムへの転換を進めています

※3 UNEP FIが2017年1月に策定したSDGs達成に向けた金融の枠組です。企業がSDGsの達成への貢献をKPIで開示し、銀行はそのプラス影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導くものです。融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として指標をモニタリングすることにより、インパクトが継続していることを確認します

※4 三菱電機グループのマテリアリティ
<https://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/sustainability/management/materiality/index.html>

※5 株式会社日本格付研究所について <https://www.jcr.co.jp/>

SDGsの達成にインパクトを与える活動として評価を得た主な取り組み

テーマ	内容	目標と指標(KPI)	SDGs
イノベーションと統合ソリューションによる「脱炭素社会」の実現	<ul style="list-style-type: none"> 自社およびサプライチェーンにおけるGHG排出量の削減 省エネ・創エネやスマート社会の実現に貢献する技術・製品・サービスの普及 	<p>【三菱電機グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2050年までにバリューチェーン全体での温室効果ガス排出量実質ゼロを達成 Scope1、Scope2 排出量を2023年度までに30%以上、2030年までに50%以上削減(2013年度比) Scope3 カテゴリ11 排出量を2030年までに15%削減(2018年度比) 新製品「製品使用時のCO₂排出量」改善率1%以上(2023年度末時点) 	  
サーキュラーエコノミー実現への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 自社製品・サービスによる廃棄物発生量の削減への貢献 廃棄物(廃プラスチック、有害廃棄物等)発生量の削減 水使用量(取水量)の削減 	<p>【国内グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生プラスチックの使用率^{※6}10%以上(2023年度末時点) プラスチック排出物の有効利用率90%以上(2023年度まで) <p>【三菱電機グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高リスク拠点の水使用量の売上高原単位を2023年度までに4%以上削減(2019年度比) 	  
ダイバーシティの推進/すべての従業員がいきいきと働ける職場環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> 従業員のダイバーシティの推進 従業員エンゲージメント、ワークライフバランスへの悪影響の発生防止 	<p>【三菱電機】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新卒採用に占める女性比率を2025年度までに過去5年平均(2016-2020年度)の1.2倍に向上 女性管理職比率を2025年度までに2020年度の2倍に向上 男性の育児休暇取得率を2025年度までに70%に向上 障がい者雇用率を2023年4月までに2.5%以上に向上 従業員エンゲージメントスコアの向上 ワークライフバランススコアの向上 	  
国際的な規範に則った人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> 人権侵害の発生防止 	<p>【三菱電機グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 過年度「人権インパクト・アセスメント」結果に基づく重点取組項目の特定と改善 「人権インパクト・アセスメント」実施率100% 人権に関わる苦情対応の充実 サプライチェーン上の重大な人権侵害リスクの把握と是正に向けた活動の継続 <p>【三菱電機】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権教育/eラーニング受講率100% 	
労働安全衛生の確保と心身の健康の維持	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害の発生防止 および従業員の心と体への悪影響の発生防止 	<p>【国内グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年度ストレスチェック高ストレス者の割合9.0%未満 <p>【三菱電機】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年度労働災害度数率0.25以下 2023年度以降も単年度目標を設定 	
コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの持続的強化	<ul style="list-style-type: none"> 品質不適切行為の再発防止 不祥事等の発生防止 	<p>【三菱電機】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3つの改革^{※7}の活動・進捗状況のウェブサイト等を通じた社内外ステークホルダーへの適切な開示(年1回以上) 独立社外取締役比率50%超 	

これらの取り組みや成果は、当社ウェブサイトや統合報告書などを通じて開示する予定です。

※6 成形用材料・包装材調達量に占める割合

※7 品質風土改革、組織風土改革、ガバナンス改革

お問い合わせ先

<報道関係からのお問い合わせ先>

三菱電機株式会社 コーポレートコミュニケーション本部 広報部

〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号

TEL 03-3218-2332 FAX 03-3218-2431

<お客様からのお問い合わせ先>

三菱電機株式会社 財務部

〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号

TEL 03-3218-2263 FAX 03-3218-2185